

■6月12日

PEACH(LCC)、関空—成田線、1日2便の就航を正式発表

ピーチ・アビエーションは11日、10月27日から関西国際空港—成田国際空港の運航を開始すると発表した。1日2往復4便を運航する。井上CEOは「2012年3月に運航を開始したピーチが首都圏への路線を開設する運びとなった。首都圏への路線については顧客から要望が非常に多かった」とのコメントを発表した。

同日、芝増上寺で安全運航祈願を行った後記者会見に臨んだ井上CEOは、他社との差別化について、「定時運航率、就航率の高さを全面に打ち出していく」ことを強く打ち出した。同社の2012年3月から13年3月末までの提示運航率は約81%で、2012年度の就航率は約99%となっている。また、成田を拠点としないため、運用時間の制限による欠航リスクは極めて低いとした。

また、親族訪問や、学生の里帰りといった生活路線として利用する乗客や、観光客の利用を見込んでおり、成田線の搭乗率は70%から75%を検討している事を明らかにした。加えて、鹿児島線を就航した時に、鹿児島—関空—新千歳のような乗継需要が創造されたことに触れ、就航後の新需要の創出にも期待を示した。

なお、井上CEOは、同社はあくまでも国内外に関わらず、関空から片道4時間以内の範囲に就航するビジネスモデルであることを強調し、成田からの路線展開は考えていないと明言した。

同社は、成田就航に伴い、関東地区で運航乗務員、整備士の採用を本格化する。

(bloomberg)6/11

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7U7O6JIVJ01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7U7O6JIVJ01.html>)

(トラベルビジョン)6/11

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57870> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57870>)

(ピーチ プレスリリース)6/11

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130611-Press-Release-J1.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130611-Press-Release-J1.pdf>)





peach流

PEACH(LCC)、紙媒体広報誌「Peaching」発刊、アクティブシニア取り込みへ

ピーチ・アビエーションは11日、Peachの広報誌として初の紙媒体の「Peaching」を発行すると発表した。創刊第1号の発行は10月下旬を予定しており、隔月刊での刊行を予定している。

同社は、インターネットが主な予約チャネルであるため、オンラインメディアを通じて情報発信をおこなっていたが、「Peach+ing」を通じ、アクティブシニア層などへ同社の認知度を高めていきたいとした。

同冊子は、Peachの就航する各空港などで配布されるほか、全国の主要病院の待合室などでも配布される予定だ。

(ピーチ プレスリリース)6/11

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130611-Press-Release-J2.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130611-Press-Release-J2.pdf>)

PEACH(LCC) 井上CEO、ANA・LCC合併事業解消報道は「何も知らない」

ピーチ・アビエーションの井上慎一最高経営責任者(CEO)は11日、都内で会見し、エアアジア・ジャパンとANAのLCC合併事業解消の報道について「何も知らない。昨日報道があったことは把握しているだけだ」と述べた。

Bloombergによると、井上CEOは同日、都内で新路線についての会見の後、記者団に対して「われわれは全日空から経営については独立が担保されている。何が仮に決まっていたとしても、ANAとピーチには情報を遮断するファイアーウォールがあり情報は入ってこない仕組みになっている」と説明した。

仮に「エアアジア・ジャパンを将来的に引き受けてほしいとの話が来たらどうするのか」との記者団の質問に対しては、「よくわからないが、モデルが違う。われわれは日本のブランドを推し進めている。一方、エアアジア・ジャパンは海外のブランドを使ってビジネスをしている。お客様が混乱するだけ」と語った。そして、「われわれは自身のことには忙しく他社のことを考えている余裕はない」とした。

(bloomberg)6/11

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7WT46JIK0101.html> (-> [http://www.bloomberg.co.jp/news/123-](http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7WT46JIK0101.html)

[MO7WT46JIK0101.html](http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7WT46JIK0101.html))

エアアジア(LCC)、ANAとの提携解も検討の声明発表

(日経によると)

アジア最大の格安航空会社(LCC)、エアアジアは11日、ANAホールディングスと共同展開してきた日本事業を巡り「ANAとの提携解消も視野に入れて検討している」との声明を発表した。「両社は経営面での意見の相違に直面してきた」と明言し、主にコスト削減策での対立を認めた。

エアアジアはANAとの合併会社「エアアジア・ジャパン」から出資を引き揚げ、新たな提携先を探すとみられる。声明では「日本事業には引き続き楽観的だ」と指摘し、日本から撤退する意思はないことを強調した。

エアアジアの2013年1～3月期決算は、日本部門が6700万リンギ(約21億円)の赤字となり、グループ全体の足を引っ張った。声明では「最も大きな意見の相違は低コストでの事業運営をめぐる問題だ」と強調。同社は着陸料の安い地方空港の活用を計画していたが、現在は主に成田空港が拠点となっており、「成田発の路線の運営」で対立があったとした。

また「エアアジア・ジャパンの経営陣は主にANAのスタッフで占められている」とANA主導の事業展開への不満を示したが、提携解消についての明言はなかった。

(日経)6/11

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110DO_R10C13A6TJ1000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110DO_R10C13A6TJ1000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110DO_R10C13A6TJ1000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110DO_R10C13A6TJ1000/)

ジェットスター・ジャパン (LCC)、成田—松山線運航開始、

ジェットスター・ジャパンは11日、成田—松山路線の運航を開始した。本邦LCCの四国乗り入れは初めて。一日1便で運航を行う。運賃は、片道4590円から2万6990円と、大手航空会社と比べ最大で7割ほど安くなっている。初便の成田からは156人、松山からはほぼ満席の173人が搭乗した。

同社は、成田と関西をハブとするジェットスターグループ国際線への接続性向上により、利用者の選択肢を拡大し、LCCの本格普及を推進目指す。

(ジェットスター・ジャパン プレスリリース)6/11

[\[http://www.jetstar.com/jp/ja/about-us/~/_media/2DFD0D1F87254A959828B42AF4D45142.ashx\\)\]\(http://www.jetstar.com/jp/ja/about-us/~/_media/2DFD0D1F87254A959828B42AF4D45142.ashx\)](http://www.jetstar.com/jp/ja/about-us/~/_media/2DFD0D1F87254A959828B42AF4D45142.ashx (-></p>
</div>
<div data-bbox=)

(aviationwire)6/11

[http://www.aviationwire.jp/archives/21698 \(-> http://www.aviationwire.jp/archives/21698\)](http://www.aviationwire.jp/archives/21698 (-> http://www.aviationwire.jp/archives/21698))

ジェットスター・ジャパン (LCC)、直近の搭乗率、4月72.7%、5月74.8%

ジェットスター・ジャパンは11日、現在の輸送実績などを発表した。

そのなかで、直近3カ月の搭乗率は、3月が86.1%、4月が72.7%、5月は74.8%だったことを明らかにした。

また、定時出発率は、就航当初の昨年7月は66%だったが、3月83%、4月83%、5月は93%に向上しているとした。

同社は2012年7月に3機で運航を開始し、現在は12機で最大1日70便を運航。2014年末までに機材を24機まで拡大する計画だ。

(日刊航空)6/12

[http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm \(-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm\)](http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm))

スカイマーク、エアバスA330型、全席プレミアムシートを導入、2014年3月から

スカイマークは11日、2014年3月末から投入するエアバス330型を全席プレミアムシートにすると発表した。これまでは運賃の安さを売りにしてきたが、LCCの登場で魅力が薄れており高品質路線へ舵をきる。

日経によると、新機材を活用した路線の普通運賃は据え置く。従来通りの割安感を維持しつつ、割引料金の体系を調整するなどして、平均販売単価の5%程度引き上げを見込む。

プレミアムシート導入の対象になるのは新たに採用するエアバス330型全10機。シート間隔は38インチで幅は22インチ。

日本航空の国内線プレミアムシート「クラスJ」とほぼ同等のゆとりを持った座席を1機あたり271席設けるといふ。

羽田—福岡線を皮切りに羽田—新千歳など羽田発着の幹線のみ投入。座席数が大幅に増え、羽田路線の旅客シェアは16年3月期に19% (13年3月期は14%)を見込む。

(日経)6/11

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110N7_R10C13A6TJ0000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110N7_R10C13A6TJ0000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110N7_R10C13A6TJ0000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD110N7_R10C13A6TJ0000/)

アジアナ航空、米子—仁川線、5月も利用率50%以下

アジアナ航空山陰支店は、5月の米子—ソウル便の搭乗者数は1976人で、搭乗率は前月を1.3ポイント下回る48.6%だったと発表した。円安の影響もあって、前年同月よりも韓国人客は増えたものの、日本人客は大幅に減り、2か

月連続で搭乗率は50%割れとなった。読売新聞が報じた。

搭乗者の内訳は、日本人が1020人(前年同月比28.5%減)の一方、韓国人は914人(同24.4%増)だった。同支店では、「北朝鮮の核・ミサイル問題の影響が長引いている」と分析している

(読売新聞)6/12

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130610-OYT8T01422.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130610-OYT8T01422.htm>)

大韓航空、青森—仁川線、日本人利用率激減、7月からの運休も視野

青森—ソウル線を運航している大韓航空が、日本人利用客激減により7月から運休せざるをえないと、青森県に申し入れている事が分かった。三村申吾青森県知事が6月5日の定例会見で明らかにした。

青森—ソウル線については、震災や円高の影響により激減していた韓国人需要が、昨年の秋頃から回復傾向にある一方で、4月の日本人利用者数が、ウォン高や国際情勢等の影響から前年同月の約5割、利用率も約58パーセントと落ち込み、5・6月の利用率・予約率も低い状況にある。このため、大韓航空からは、今のままの予約状況であれば7月から運休せざるを得ないという連絡等があったという。

(日刊航空)6/11

<http://www.da-news.co.jp/> (-> <http://www.da-news.co.jp/>)

イラク航空、2017年までに40路線へ拡大計画

イラク航空が23年ぶりに路線を拡大し、2017年までに、現在の15路線から40路線へと拡大したい意向だ。同社は、ボーイング787型機を10機発注するなど新型機の調達にも積極的で、同国の復興の一翼を担っている。

これまでに首都バグダッドとロンドン、フランクフルト、デュッセルドルフ、クウェートを結ぶ国際便が加わったほか、コペンハーゲン、ストックホルム、クアラルンプール、さらには中国各地との間を結ぶ便も就航させる計画している。

また、運輸省はバグダッド空港に3つの新ターミナルを建設し、利用客数を現在の倍の年間1500万人に増やす計画だという。

(CNN)6/11

<http://www.cnn.co.jp/business/35033250.html> (-> <http://www.cnn.co.jp/business/35033250.html>)

フィリピン実業家・タン氏、フィリピン航空経営権売却を検討

(bloombergによると)

フィリピンの資産家ルシオ・タン氏はPALホールディングスとフィリピン航空の経営権の売却について、投資家グループから打診を受けている。同氏は20年間にわたって関わってきた航空事業からの撤退の準備を進めている。

PALの11日の届け出によると、タン氏は「真剣に提案を検討している」という。同氏はPALなどの企業を通じてフィリピン航空の株式51%を保有している。昨年4月のサンミゲルへの株式売却額から算出した数字に基づけば、評価額は5億2000万ドル(約510億円)に上る可能性がある。

フィリピン航空株の49%を保有するサンミゲルは10日、タン氏の持ち分を買い取らない方針を明らかにした。

(bloomberg)6/11

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7TMZ6JTSES01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MO7TMZ6JTSES01.html>)

ノック・エア(LCC)、上場、新株公募で約100億円を調達

タイ国際航空傘下の格安航空ノック・エアは、20日にタイ証券取引所(SET)に上場する。新株公募で調達する計画の32億5,000万バーツ(約100億円)は、事業拡大に充てる。

11日付バンコクポストなどによると、ノック・エアは調達した資金で、機材を現在の16機から2015年までに30機に増や

す。このうちボーイング737—800型機(189席)は、14機から22機にする。
また、同社は、9月に国際線を再開する計画だ。

(NNA ASIA)6/12

<http://news.nna.jp/free/news/20130612thb003A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130612thb003A.html>)

ミャンマー政府、インド航空会社に対し直行便を許可

ミャンマー政府はインドの航空会社に対し、直行便の運航権を付与した。ミャンマーと第三国との間で貨客を運送する
以遠権も含まれる。ビジネス・ライン(電子版)などが伝えた。

既に格安航空会社(LCC)スパイスジェットは、以遠権を念頭にデリーからダッカ(バングラデシュ)経由でミャンマーの
中心都市ヤンゴンを結ぶ路線の運航権を申請している。

(NNA ASIA)6/12

<http://news.nna.jp/free/news/20130612inr016A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130612inr016A.html>)

ユナイテッド航空、成田—デンバー線開設、使用機材はボーイング787

ユナイテッド航空は11日、成田空港と米デンバー国際空港を1日1往復する定期旅客路線を開設した。アジアからの直
行便は成田が初めて。ビジネス旅客の獲得をめざす。

使用機材は、ボーイング787(座席数ビジネスファースト36席、エコノミープラス72席、エコノミー111席)。初便搭乗率
は90%超。当面の予約状況も好調といい、アジア全域と米国中西部の都市の乗り継ぎ客が7~8割を占めるとみている。

(東京新聞)6/12

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20130612/CK2013061202000120.html> (-> <http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20130612/CK2013061202000120.html>)

全日空、サンノゼ線を増便、使用機材はボーイング787

全日空は10日、成田—サンノゼ線増便すると発表した。7月10日から、現在の週5便からデイリー便とする。使用機材は
ボーイング787-8型(座席数 ビジネス46席・エコノミー112席)。

(ANA プレスリリース)6/10

http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-047.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-047.html)